

## 議長定例記者会見の概要 (11月定例会)

日 時：令和4年12月7日(水)  
11時07分～11時25分  
場 所：議長応接室



### 【11月定例会を終えての議長所感】

(中野議長)

お集まりいただきありがとうございます。

今定例会では補正予算の追加提出が2件ありましたが、本日までに、全ての議案を認めたところですが、一般質問については、台風被害があったこと等を含め、議員の皆さんは日頃からよく調査をされており、真剣な論議が行われたと感じています。また、本日は、意見書も全て可決しました。

会期中には、鳥インフルエンザも発生しました。全国で多数発生し非常に緊張しましたが、これからの対策に係る追加予算も出ましたので、対策に万全を期してもらいたいと思っています。

議会のICT化ということで、今定例会の常任委員会と特別委員会において、タブレット端末を使用した資料閲覧をスタートすることができました。議会のICT化については、今後、もっと進めてまいりたいと思っています。

この11月定例会は、一番会期の短い議会ではありましたが、無事閉会し、新たな年を迎えられる運びとなりました。

## 【質疑応答】

(NHK)

明日、知事選が告示されますが、知事という役職に就く人に対し、議会としてどういったリーダー像を求めますか。

(中野議長)

選挙ですから、立候補された方々が、それぞれの立場で自分の信念に基づき戦われると思いますが、個別の候補者に対する意見については、県議会議長としては申し上げられないと思います。

(二見副議長)

一番関心が高いところだと思います。

議会としては、それぞれの会派・政党の考えもあるでしょうから、公式な立場では特別申し上げることはありません。選ばれた方が、県政発展のためにしっかり頑張っていただけだと願うばかりですし、足りないところについては、我々議会が質問などを通じ、県政発展につなげていくということが、両輪としての役割の一つだと思います。

リーダー像と言われても様々なリーダーがいると思いますから、それぞれが持っている力を発揮していただければと思います。

(NHK)

議長、副議長それぞれの立場から、現在の知事に対する評価はいかがでしょうか。

(中野議長)

言いたいことはたくさんありますが、官僚の出身ということで、仕事の内容を熟知されており、仕事をそつなくこなしていることは高く評価します。

行政という仕事は、毎日がお祭りのようにいくわけではありませんので、真面目にそつなくこなすことが一番だと考えています。やはり、県民を路頭に迷わせるようなことがあってはなりませんので、そういう意味では評価されると思います。

ただ、人によっては、物足りないところがあると思う人もいるようですが、先ほど申し上げたとおり、行政という仕事はお祭りのようなものではありません。

そういう意味では、これまで現職の知事を見てきて、私としては合格ラインの知事だと思っています。

「宮崎県知事」は宮崎県のリーダーですから、先見性を持ち、できれば太っ腹でいてほしいです。

(二見副議長)

ここ最近では、ちょっと対応が早くなったような気がします。

今回、追加の補正予算を2回出したこともそうですし、11月の初めには臨時会を開いて対応しました。これはもちろん、議案をつくる執行部のスピード感があったのかかと思えますし、どういうことがあったのか詳細は分かりませんが、ここ最近では対応にスピード感が出てきたなと感じました。

(読売新聞)

知事選の関連で、投票率にも注目が集まると思います。前回の知事選の投票率は30%程度と低く、県政に対する県民の関心が低いともとれますが、その辺りの問題点につい

て伺います。また、投票率に関して今回の知事選で期待することをお聞かせください。

### (中野議長)

投票率が低いということについて、本当に残念に思っています。最近では50%以下が続いていますが、50%を割るようではどうかと思います。今度の知事選で立候補される方が以前出た選挙では、60%を超えました。

昔、我々が若い頃は、選挙をすれば80%以下ということはありませんでしたが、現在、どんどん下がってきました。

なぜ下がってきたかという本質的な理由については、正直言って、みんな把握できていないのではないかと、理論づけられていないのではないかと、私は思っています。ですので、この原因がどこにあるのかということは、私としてはわかりません。

ただ、世の中はかなり成熟してきましたので、不満やら色々あるのだけれども、トータルとしては世の中こんなものかなあ、と思っている人もいるのかもしれない。世の中が混乱したり、情勢が非常に陰しくなったり、経済がおかしくなったりなど、状況が極端になると、皆さん色々と政治的な要望がわいてくると思います。そして、そのときに選挙があれば、自分たちの考えになるべく近い人を当選させるために、投票して行くのだと思っています。その証拠に、日本全体の投票率がどんどん低くなってきていますが、途上国を含め諸外国に目を向けると、意外と選挙の際の投票率は高いですね。これらの国では、満足度が高くないのではないだろうかという気がしています。詳細に海外との比較はしておりませんが、感想として、このように思っています。

この前の宮崎市選挙区における県議会議員補欠選挙は、補欠選挙だったからということもあるでしょうが、僅か18%程度でした。その結果について、分析はされていないように思いますが、今回の知事選においては、少なくとも50%を上回るように、そして、来春の統一地方選における我々県議会議員の選挙においても、50%以上は確保していくように、我々が今からできることがあれば、一生懸命努力していきたいと思っています。

### (二見副議長)

投票率の問題については、難しいですね。

ただ、議長の若い頃とは違うかもしれませんが、私自身が感じることは、同世代の30~40代のメンバーでも、以前は投票率が低いと言われていましたが、年齢が上がるにつれて投票率も上がってきています。

これは、私たち自分自身の生活と政治が、いかにつながってるのかということを理解して行って、上がってるのかなと個人的に感じています。若いうちから関心を持ったり携わったりしている方は、親の仕事を継いでいたり、農家や自営業の方だったり、政治と選挙について親が一生懸命やっていたので、それぞれの親子の中でも、子供がそれを見ながら育てるので関心が高いのかなと思っています。私は、公務員の家庭に育ったので、選挙運動というものには全然関わりがなかったのですが、このように当事者意識をもつということが、投票率の向上につながってくるのかなと思います。

今は時代が変わって、情報源がネットなどになってくると、人と人との話の中で情報を得るのではなく、自分で欲しい情報を色々なところから取ることができます。

しかし、それはあくまで自分一人だけの世界に入ってしまうので、政治への関わり方をどのようにすればよいのかと思います。

要するに、選挙は代表を選ぶわけなので、その候補者と接点を持つということが、投票行動につながる第一歩ではないでしょうか。

そのためには私たち議員も、県内各地域にいるので、どれだけ地域の有権者の方々、

また、次世代を担う若い方々と接点を持てるか、対話をしやすくするかというところが重要なポイントだと思います。

その一つのツールとしてSNSがありますが、会ったことのない人でも、匿名もしくは個人情報を出しながら意見交換等ができます。このように、これからの時代は様々な情報ツールを活用し、いかにつながりをつくっていくかということに、懸かってくるのではないかと思います。そこにどうしてもつながりが持てないとなると、疎外感というか、政治に対する期待が少なくなり、投票行動につながっていかないのではないのでしょうか。

これはあくまで推測になってしまいますが、このように感じますので、関心を高めることも必要ですが、日頃から接点を持てるようなことが重要なポイントなのかなと思います。

#### (中野議長)

選挙権年齢が18歳に引き下げられたので、高校3年生も投票できるようになりましたよね。今度の知事選においては、今年4月2日から投票日までの間に満18歳になった人に選挙権があります。

しかし、我々県議会議員の選挙もある統一地方選の際は、このような方々は、多くが就職か進学で地元を出て行ってしまっていますので、その分、今度の統一地方選では投票率が低くなるのではないのでしょうか。選挙権年齢を18歳にしたけれども、投票の時期においては、投票できないことになるのではないかと、私はいつも思っています。

メディアの方々も把握していると思いますが、このために、この年代の投票率が低いということもあるのではないかと思っています。出て行った先でも、3か月以上居住するという条件などもありますから、投票できないわけです。

ですので、このことを含めて投票についてはもっと研究して対策しないと、せっかく投票の機会があるのに、18歳の人投票できないという状況が出てきてしまっていると思います。